

【2021 年度/専門科目領域/専門科目群/理学療法学科/旧カリキュラム】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
理学療法演習Ⅲ - 2		必修	1	3	後期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
粕山 達也	D311	kasuyama	月曜日 13:00~14:40		
授業の目的・概要	3 年次臨床実習の準備として、必要な知識の収集方法を取得する。また、実習に必要な評価方法の整理を行い、疾患固有の画像の診方を学習し、評価における統合と解釈について習得する。本講義では、症例について理解するための基礎的な知識の整理をするとともに、各症例に対して、個人単位で病態の理解から実際の評価、統合と解釈までの流れを学び、臨床実習における思考過程を習得する。				
学習上の助言	各疾患の病態理解のため基礎医学（解剖学、生理学、運動学）の知識が必要となる。理学療法評価学及び診断学で学んだ評価内容についての知識が必要となる。				
教科書	指定しない				
参考書	指定しない				
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針	
①	対象疾患に関する情報を収集し、整理することができる。			PT (2)、(4)、(6)	
②	対象疾患の理学療法に関して、実際の評価を説明することができる。			PT (2)、(4)、(6)	
③	各疾患に関する思考過程について整理し、内容について討議することができる。			PT (2)、(4)、(6)	
④					
⑤					
⑥					
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業の方法	学習課題・学習時間 (時間)		
1	オリエンテーション [担当: 粕山達也]	講義	臨床推論について予習する	1	
2	模擬症例に対する臨床推論の概要説明 [担当: 粕山達也]	講義、実技	対象疾患 (変形性関節症) に対する資料を整理する	1	
3	模擬症例に対する臨床推論 対象症例: 変形性関節症 [担当: 粕山達也]	講義、実技	対象疾患 (肩関節周囲炎) に対する資料を整理する	1	
4	模擬症例に対する臨床推論 対象症例: 肩関節周囲炎 [担当: 粕山達也]	講義、実技	対象疾患 (腰痛症) に対する資料を整理する	1	
5	模擬症例に対する臨床推論 対象症例: 腰痛症 [担当: 粕山達也]	講義、実技	対象疾患 (前十字靭帯損傷) に対する資料を整理する	1	
6	模擬症例に対する臨床推論 対象症例: 前十字靭帯損傷 [担当: 粕山達也]	講義、実技	対象疾患 (大腿骨頸部骨折) に対する資料を整理する	1	
7	模擬症例に対する臨床推論 対象症例: 大腿骨頸部骨折 [担当: 粕山達也]	講義、実技	対象疾患 (脳血管障害) に対する資料を整理する	1	
8	模擬症例に対する臨床推論 対象症例: 脳血管障害 [担当: 粕山達也]	講義、実技	対象疾患 (パーキンソン病) に対する資料を整理する	1	
9	模擬症例に対する臨床推論 対象症例: パーキンソン病 [担当: 粕山達也]	講義、実技	対象疾患 (小脳性疾患) に対する資料を整理する	1	
10	模擬症例に対する臨床推論 対象症例: 小脳性疾患 [担当: 粕山達也]	講義、実技	対象疾患 (脳性麻痺) に対する資料を整理する	1	
11	模擬症例に対する臨床推論 対象症例: 脳性麻痺 [担当: 粕山達也]	講義、実技	対象疾患 (慢性閉塞性肺疾患) に対する資料を整理する	1	
12	模擬症例に対する臨床推論 対象症例: 慢性閉塞性肺疾患 [担当: 粕山達也]	講義、実技	対象疾患 (循環器疾患) に対する資料を整理する	1	
13	模擬症例に対する臨床推論 対象症例: 循環器疾患 [担当: 粕山達也]	講義、実技	対象疾患 (フレイル、サルコペニア) に対する資料を整理する	1	
14	模擬症例に対する臨床推論 対象症例: フレイル、サルコペニア [担当: 粕山達也]	講義、実技	臨床推論に関する自分の考えを整理する。	1	
15	これまでの学習の総括を行う。 [担当: 粕山達也]	講義、実技	臨床推論について復習する	1	
試	課題レポート 達成度評価・評価のポイント参照 [担当: 粕山達也]				

【2021 年度/専門科目領域/専門科目群/理学療法学科/旧カリキュラム】

総合評価割合 (%)		達成度評価					合計
		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	
		100	0	0	0	0	100
総合 力 指 標	知識・技術力	70	0	0	0	0	70
	思考・推論・創造する力	0	0	0	0	0	0
	協調性・リーダーシップ	10	0	0	0	0	10
	発表・表現伝達する力	10	0	0	0	0	10
	コミュニケーション力	10	5	0	0	0	10
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	0	0
	問題を発見・解決する力	0	0	0	0	0	0
評価のポイント							フィードバックの方法
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点					
試験	①	✓	各回で実施する模擬症例に関する知識を問う内容とする。 また、症例基盤型学習で提示された疾患に関する解剖学、運動学、生理学についての基本的な知識について理解度を問う内容も求める。			テストの添削、開示	
	②	✓					
	③	✓					
	④						
	⑤						
	⑥						
レポート	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
成果発表	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
ポートフォリオ	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
その他	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
備 考							
<p>授業中の私語は禁止します。再度、注意しても改善されない場合は退室してもらいます。</p> <p><b>教員の実務経験</b>：理学療法士（臨床経験 15 年）、整形外科クリニック 6 年、訪問リハビリテーション 9 年 日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー（臨床経験 15 年、資格取得後 5 年）</p> <p><b>実践的な授業内容</b>：理学療法で対応する症例に関する講義・実技を行い、症例提示を含めた実践的な学習課題を提供する。 疾患特異的な評価方法の実際や治療手技の内容についても指導する。</p> <p>大学が公表している感染対策および教員が示す授業方法を遵守すること。問題がある場合は面接授業の参加を認めない。 今後の感染症の状況など、社会情勢に応じて再度シラバスの変更が生じる可能性がある。</p>							